

舞鶴引揚記念館 令和3年度第1回企画展  
『太平洋戦争開戦80年 開戦と満洲と抑留と』

先に開催をお知らせしております企画展「太平洋戦争開戦80年 開戦と満洲と抑留と」について、展示の詳細が決まりましたのでお知らせいたします。

1. 展示期間

令和3年4月17日(土)～令和3年7月4日(日)

※展示期間中の休館日：5月20日(木)6月17日(木)

2. 場所

舞鶴引揚記念館 企画絵画展示室 (企画展は無料。別途入館料が必要です)

3. 展示概要

今年には太平洋戦争(大東亜戦争)開戦から80年にあたります。真珠湾攻撃、マレー作戦に始まったこの戦争は、終戦直前の満洲侵攻へと続きシベリア抑留へとつながりました。

当館に収蔵している絵画や絵葉書を中心に開戦から終戦・抑留まで振り返り、ちばてつや氏など著名漫画家がみた開戦後の満洲の姿をたどります。

なお、当館収蔵資料の他、NHKや新聞社からお借りした開戦を知らせるラジオニュース(音声)や、新聞記事もあわせて展示します。

5. 展示資料

総点数 49点

- ・開戦の詔書(複製)1点
- ・回想記録画16点
- ・絵葉書16点
- ・出征の旗4点、
- ・出征時の写真パネル9点
- ・開戦を知らせるラジオニュース音声1点
- ・開戦を知らせる新聞記事2点

【お問い合わせ先】

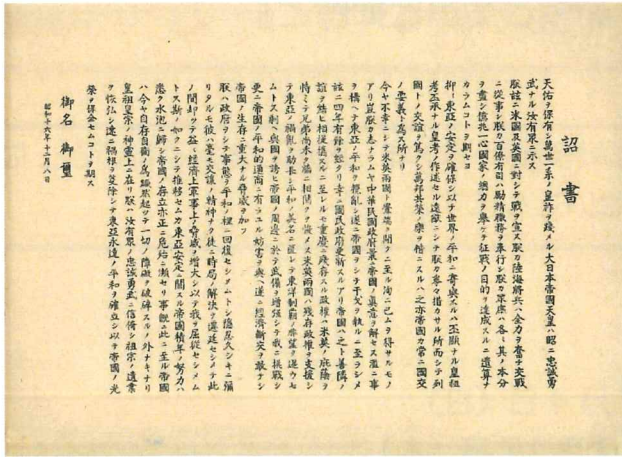
舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370

E-Mail：hikiage@city.maizuru.lg.jp



6. 主な展示資料

① 開戦の詔書



昭和16年(1941)12月8日、真珠湾攻撃などに端を発した太平洋戦争(大東亜戦争)の開戦を宣言した詔書の複製品。詔書とは天皇が国家にとっての大事を国民に知らせる文書。開戦当初、日本に有利だった戦争は開戦からわずか半年で逆転し、想像を絶する結末を迎えた中にシベリア抑留があった。展示の詔書は昭和18年(1943)12月に陸軍美術協会が開催した「第二回大東亜美術展」の記録画集(図録)の付録。

② 開戦を伝える新聞



昭和18年(1941)12月9日の朝日新聞の朝刊。12月8日(日本時間)に日本軍が真珠湾を攻撃し太平洋戦争(大東亜戦争)が開戦したことを伝えている。

③ 太平洋戦争開戦日の臨時ニュース

1941年12月8日の午前7時のラジオの臨時ニュース。アメリカ、イギリス軍と戦争状態になったことを多くの国民に伝えた。(NHKより音源提供)



④ 満洲への玄関口「大連」の様子を伝える絵葉書



当時の大連の風景が描かれた絵葉書。大連は満洲への玄関口として多くの日本人が踏みしめた場所であり、戦後は日本へ引き揚げる人たちが集結する場所の一つとなった。

満洲（大連）の絵葉書①



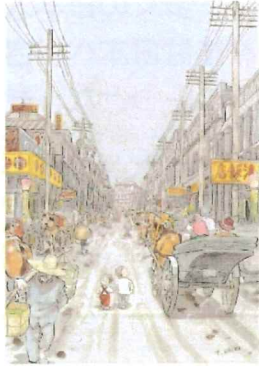
満洲（大連）の絵葉書②



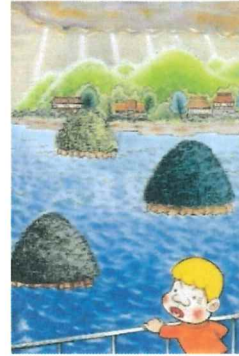
満洲（大連）の絵葉書③

⑤ 満洲での生活や戦後の様子が描かれた回想記録画

赤塚不二夫氏やちばてつや氏などの漫画家が幼少の頃に過ごした満洲での思い出を描いた作品や、シベリア抑留の体験者達が終戦後ソ連軍が満洲へ侵攻した後の様子などを描いた回想記録画。



キョロキョロ、  
何かおもしろいものはないかな  
ちば てつや氏



はじめてみた日本は箱庭  
みたいにきれいだった  
赤塚 不二夫氏



路地裏で中国の子供たちと遊んだ  
高井 研一郎氏



ソ連軍来襲  
吉田 勇氏



武装解除  
齊藤 邦雄氏



丸太運びの重労働  
早川 収氏

⑥ 出征の旗（幟）



戦地へ向かう男性のために家族や親せき、友人や知人などが見送りの旗（幟）を作った。戦地へ向かう人の名前が書かれ、その上には軍隊に入ることの意味した「入営」の文字が見える。次第に戦争が激しくなるとこうした出征の旗を作ることが国も奨励した。旗は手作りのものや専門の業者に依頼して作ってもらったものなどさまざまだが、見送る側の「生きて帰ってきてほしい」という願いが込められたものでもあった。

【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370  
E-Mail：hikiage@city.maizuru.lg.jp

